

「タンポポ調査・西日本2015」第1回調査マニュアル小委員会報告

【日時】 2013年8月31日(土) 午前9時10分～12時

【場所】 大阪自然環境保全協会事務所

【出席者】 鈴木(兵庫)、小川(徳島)、狩山(岡山)、芦谷(滋賀)、木村・高島(大阪)

以上6名

【司会】 木村(大阪自然環境保全協会)

【記録】 木村(同)

【案件】

(1) 第1回「タンポポ調査・西日本2015」実行委員会報告

① 概要

・日時 2013年6月30日(土) 午後3時～4時40分

・場所 大阪市立自然史博物館 集会室

・出席者 29名(12都府県)

・司会 木村・高島(大阪自然環境保全協会) ・記録 木村(同)

② 調査の目的・実施体制の検討

1) 調査の目的

A. 環境変化による分布変化(外来種の分布拡大)

B. タンポポ属の各種の分布状況(生物多様性) A・Bいずれに重点を置くかは、各府県によって異なっても構わない。これらに加えて、外来種と在来種の雑種の分布についても現状を把握する。

2) 調査組織体制

・組織名: 「タンポポ調査・西日本調査実行委員会」

(今回の調査の名称は「タンポポ調査・西日本2015」とするが、組織名は2015を取りたい。様々な書類(郵便局の振替口座、後援名義申請など)の関係。

・代表: 布谷知夫氏(三重県立博物館長) ・副代表: 武田義明(前神戸大、依頼中)

・事務局: 大阪自然環境保全協会に事務局を置き、協会の木村・高島・宮田に加え、鈴木氏・小川氏・狩山氏の計6名をメンバーとする。

・会議の持ち方: 前回同様に、実行委員会+スタッフ会議+課題別小委員会の方式で会議を持つ。当面の調査マニュアル作成は、「調査マニュアル作成小委員会」で実施する。メンバーは鈴木・小川・木村+希望者とする。スタッフ会議・小委員会ともMLで案内を流して、だれでも自由に参加できるものとする。

・データ処理体制……事務局中心に行い、今回は、小川氏にまとめ役をお願いする。

・HP……これまで担当の横山氏が多忙のため、小川氏中心に検討を進める。

・ML……実行委員会メンバー用と一般用MLを、次回調査に向けて再度整備する。すでに村田氏がML名を「タンポポ調査2015」に名称変更し、アドレス変更などで連絡が取れなくなっているメンバーにも招待状を出し、整備を図っている。

・各府県事務局……アンケート結果から、一部の府県では事務局が成立しない可能

性がある。今後、予備調査実施の来春までに、働きかけを行って、可能な範囲の府県で事務局を引き受けてくれる団体や個人を募る。ただし、もし、事務局が決まらない府県や、データ処理体制が整わない府県が出た場合にも、その府県のデータが処理できるような体制づくり(助成金でアルバイトを雇うなど)を検討していきたい。

- ・後援名義申請……前回同様に申請する予定。

③ 雑種タンポポの解析について

- ・大阪市立大学の伊東研究室で、前回と同様のサンプル程度なら引き受けていただけることとなった。その際、現時点での知見を基にして、雑種タンポポを確定するために、前回の方法とは異なり、「フローサイトメーターによる核あたりのDNA量測定」と「核DNAのITS領域を使うDNA解析」が必要となり、そのためには、果実が生きている必要があるため、処理後すぐに冷蔵するなど保存状態に留意する必要がある。

(2) 調査方法（調査マニュアルも含む）について

① 調査の基本的な方法

- ・原則として前回と同じ。「サンプル(頭花と瘦果)の添付・総苞外片の状態の記録・花粉の顕微鏡観察・一定数のサンプルで雑種の解析」

② 種の同定について

- ・調査者による同定
- ・各府県事務局による同定
- ・判定困難な標本の扱い

③ 調査地点の表し方とメッシュの扱い……位置情報の取得

- ・まず、新測地系による緯度経度の記載を基本とする
- ・メッシュ番号を併用するか?……やはり、メッシュ地図を使った調査も広がり考えた場合に有効であり、今回も取り入れたい。
 - ・ただし、前は旧測地系によるメッシュ番号を用いたが、今回は「新測地系によるメッシュ番号」に移行する。→そのために、新メッシュ地図を独自に作成し、HPで公開したい。(環境庁の旧メッシュ地図は古くて使いづらい)
- ・三島さんの開発された記録用アプリ(「ここピン」)について……実行委員会当日、「ここピン!タンポポ調査西日本2015テスト版」を使って、調査結果の記録方法について実習を行った。スマホなどでの調査地点の緯度経度の記録とタンポポの頭花を撮影することに記録や環境の記録が同時にでき、それぞれのデータの登録番号を発行してそれを送付する標本に記載すれば、標本との対応も可能となるので、次回の調査に取り入れる方向で検討を進めることとなった。今後、三島さんとの間で具体的な運用に関して検討を進めることとするが、今回の会議では、この方式で寄せられたデータとその登録番号を調査期間中に一定期間ごとにまとめて、サンプルが送られる各府県事務局へ知らせる必要があるが、これをどうすればよいかなどを検討した。

(3) 「調査用紙」の改訂について（以下の部分を書きなおす）

- ① 名称を変更する。「タンポポ調査・西日本2010」→「・・・2015」
*調べた日：2010年 月 日→201□年 月 日
- ② 環境の記録について……「タンポポのあった場所の様子」
 - ・以下の記載は変更する。
「D. 田んぼや畑、果樹園、農道など」→「D. 田畑、あぜ道、果樹園、農道など」
「G. 道路沿い、分離帯」→「G. 車道沿い、分離帯」
 - ・各種の分布と環境との解析をするために、環境の区分を変更(細分化)するか？
 - ・2倍体在来種のない地域での外来種の分布環境に差があるかどうかを検討するためにはどうすればよいか？……これらについては、芝池氏とも連絡を取って次回までに検討することとなった。
- ③ 緯度・経度の記載……前回同様に記載するが、そのデータの情報源を明記してもらう（例えば、国土地理院HP、GPS、携帯電話、その他）。
- ④ ココピンデータと送付するサンプルを一致させるための登録番号の記入を追加。

(4) 調査実施要項の作成・データ入力について

- ① 調査用紙について
 - ・一般向けに加えて、「子供用マニュアル」を作成してはどうかという意見があり、前回の作成例も参考に検討をしたい。
- ② 調査実施要項について
 - ・調査実施要項……各府県実行委員会向けと一般参加者向けが必要
→「調査マニュアル小委員会」で検討を進め、12月開催予定のスタッフ会議で決定。
- ③ データ入力について
 - ・入力フォーマット……エクセルへの直接入力で行う。
 - ・集約の方法について……助成金や科研費などを使って、アルバイトを雇って入力作業進めることも検討したい。
- ④ その他

(5) 各府県の現状報告と事務局の見込み

(4) 今後の予定・進め方

2013年 6月30日 第1回実行委員会

8月31日 第1回調査マニュアル小委員会（以後、数回開催）

*調査用紙・調査方法の検討

*この間、事務局中心に各府県事務局の検討を進めるとともに、助成金取得に関して検討と、実際の申請を進めていく。

12月 第1回スタッフ会議

*調査用紙の確定→印刷・府県事務局の確定

2014年 1月～2月 調査への参加呼びかけ

3月 第2回実行委員会（兼現地説明会・講習会）

3月～4月 各府県・ブロックでの説明会・講習会の開催

3月～5月 予備調査の実施→調査用紙回収

5月～6月 調査用紙・サンプルの処理・花粉観察・データ入力

	6月～8月	予備調査結果の解析→中間報告書の作成(～12月)
	9～11月	第3回実行委員会(本調査に向けて)
	～12月末まで	本調査時の事務局の確定と調査用紙の印刷
2015年	2月～3月	第4回実行委員会(兼現地説明会・講習会)
	3月～5月	本調査の実施
	6～12月	本調査結果の解析(西日本全体・各府県別)
2016年	3月まで	最終報告書の作成・報告会の開催

<当面の予定>

① 第2回調査マニュアル小委員会

- ・日時：10月19日(土) 13時～16時
- ・場所：大阪自然環境保全協会事務所
- ・内容：調査実施要項の検討、調査方法・調査用紙の検討、組織体制の確立
助成金の確保・後援の依頼など

② 第1回スタッフ会議

- ・日時：12月14日(土) 13時～16時
- ・場所：大阪自然環境保全協会事務所(同上)
- ・内容：処理マニュアルの検討、各府県事務局の決定、調査方法の確定→調査用紙の印刷

③ 第2回実行委員会(兼、現地説明会・講習会)

- ・日時：2014年3月2日(日)
- ・場所：大阪市立自然史博物館
- ・午前10時～12時：タンポポ調査の方法に関する一般向けの現地説明会
(於 長居公園～自然史博集会室)
- ・午後1時～4時：サンプル処理方法を中心とした実行委員向けの講習会
(自然史博 新実習室)